

## 平成二十八年 論語に学ぶ人間学セミナー

好評を受けて今年で六年目に入った論語セミナー。今年からは、「仮名論語」に加えて、「男の風格をつくる論語」(伊與田 覺著 致知出版社)をテキストに学んでおります。後半の講義は、三木英一先生の人生を熱く語っていただき、本物人間に学ぶセミナーとして十二月までの講座となっております。いつからでも参加できますので、別添お申込書にて申し込みください。

人間学セミナーも今回で五回目となりました。はじめは仮名論語の素読になります。参加されている全員が姿勢を正し、朗読していきます。回を重ねる度に声もそろい内容を理解しながら読めるようになりました。

### 仮名論語 衛靈公第十五

しよたま

じよ

子曰わく、其れ恕か。

なか

己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。

子貢が先師(孔子)に問いかけました。「一言で生涯行っていくべき大切なことがありますか。」先師は答えられた。「それは恕かなあ。自分にそうされたくないことは、人におしつけないことだ。」

この章句は論語の中でもとても有名な章句です。「恕」とは思いやり。先師は「仁」と同様「恕」をととても大切にし、また弟子たちにも伝え続けてこられました。弟子の曾子も「夫子(先生)の道は忠恕のみ」と言っております。人として大切なこと、あらためて気付かせて頂きました。

「男の風格をつくる論語」(伊與田 覺著 致知出版社)

第三章 情理によって結ばれた師弟の絆(1)

人間は初めから立派なわけではありません。磨けば光る金剛石も、磨かなければ普通の石ころと変わりません。孔子は十五にして学を志し、想像できないくらい学問を追及していきます。自ら「自分くらい学問を好むものはいない」というくらいでした。しかしその過程は容易ではなかったと思います。努力を継続し、自らを磨き続けることが、立派な人物になるためには重要だと思えます。

三木英一先生の人生講話 「目に見えないものを見る」

目に見えないものを見るには感性を磨くこと。生かされ生きていることに感謝する。人間は大自然の恵みを戴いて生かされている。目に見えない神仏に目を向けてみる。その他にも、歌人 金子みすず先生の詩や、近代日本を代表する評論家の小林秀雄先生の話を紹介してくださいました。

人間学セミナーは自身を磨く為の良い機会になると思います。皆様のご参加お待ちしております。  
次回第六回は、七月十三日(水)午後六時三十分からです。